

毎年7月1日は 南幌町治水感謝の日です

南幌町では、夕張川の治水工事で犠牲になった方々の供養と治水工事の成功に感謝するため、毎年7月1日を南幌町治水感謝の日としています。

南幌町の開拓の歴史、それは同時に水との戦いの歴史でもあった

南幌町の開拓当時は、石狩川、千歳川、夕張川の各河川に囲まれた袋地の状態で、いったん大雨が降ると常に夕張川が氾濫し幾度となく住民に悲惨な災害をもたらしました。南幌町を水害から守るため、明治43年から昭和11年までの27年間の長きにわたり、その半生を夕張川治水事業に尽くされたのが、南幌町更生の恩人、保原元二^{もとじ}氏です。

治水事業の内容は、長沼町との境界を流れる曲りくねった夕張川を千歳川から絶縁し、直接石狩川へつなぐための放水路を掘るといふ、当時では画期的な大事業です。治水工事の成否は、南幌町の歴史を大きく左右する決め手となりました。今では夕張川の両岸に、ゴルフ場や運動施設などを有する夕張川リバーサイド公園として町内外から多くの人々が憩いの場として利用しています。

三重緑地公園内には、移転された保原氏の胸像並びに彰徳碑、治水感謝の碑を建立し、南幌町の発展を共に見守っていただいております。毎年7月1日に、三重緑地公園内にある碑の前で治水感謝式を執り行っています。

ここに、先人たちが幾度の苦難を乗り越えて夕張川治水工事完成までの記憶をたどり、いつまでもこの功績が語り継がれるように広報へ掲載しています。



「南幌高等学校の存続を求める集会」 の開催について

6月5日に北海道教育委員会から、平成31年度から平成33年度までの公立高等学校配置計画案が公表されました。

計画案では南幌高校について、これまでの入学者の状況等を勘案し、平成33年度に募集停止、平成35年3月末をもって廃校とする案が示されました。

これまで、魅力ある高校づくりに向けた支援策を講じ、生徒の確保に努めている中での発表は、地域の衰退はもとより教育環境の充実という点で大きな影響があることから、関係機関に対し南幌高校の存続を強く要望するため「南幌高等学校の存続を求める集会」を開催します。

日時 平成30年7月10日(火)午後6時～

場所 南幌町生涯学習センター「ぼろろ」3階研修室
主催 南幌高校振興協議会

【お問い合わせ】

南幌町教育委員会
生涯学習課学校教育G
☎378-6620